

エルサルバドル政治経済月報 (2024 年 7 月)

2024 年 8 月
在エルサルバドル大使館

内政

1. ブケレ大統領による緊急事態への対応

7 月 5 日、ブケレ大統領は夜 8 時より約 1 時間半にわたり、閣僚を招集した上で、エルサルバドルが直面する「降雨」、「デング熱」及び「食料価格の増加」という三つの緊急事態に対する政権の対応につき国民向け全国放送で生中継した。各担当閣僚による現状報告や対策について報告を聞きつつ、食料価格の不当な引き上げに注意喚起した他、翌日以降、基礎食料品を適正価格で販売する市場を設けると発表した。

2. 第 1 回母乳育児地域フォーラムの開催（大統領府 SNS、UNITAR プレスリリース）

7 月 18 日、サンサルバドル市セントロの国立図書館にて、国連訓練調査研究所（UNITAR）主催の第 1 回母乳育児地域フォーラムが開催された。同フォーラムにはガブリエラ大統領夫人が出席し、母乳育児の重要性について強調した。

3. ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）による世論調査結果

ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）は、5 月 20 日～6 月 4 日の期間に実施した、ブケレ政権の評価に係る世論調査（対象者：1,266 人、訪問式）の結果を発表。

(1) 第一期ブケレ政権の評価は 65～85%と高い評価で推移、また、10 点満点とする大統領や各省庁の評価も 7～8 点台と全体的に高め。更に 4 割以上が第一期政権において失敗はないと回答。

(2) 現在直面する問題としては、経済、失業、生活費の高騰等、その 7 割が経済関連。

(3) 「公に政府や大統領の批判をすることには躊躇する」との回答が半数を超えているが、「憲法解釈による大統領の再選が権力の乱用ととらえる」とする割合は 4 割以下。

外交

1. 米議会におけるエルサルバドル・コーカス結成の動き（ゲーツ米下院議員事務所プレスリリース）

7 月 8 日、マット・ゲーツ米下院議員（共和党）は、米下院にて超党派によるエルサルバドル・コーカス結成を発表した。ゲーツ議員は 6 月に行われたブケレ大統領の二度目の就任式に、コーカスの共同議長となる予定のビセンテ・ゴンサレス下院議員（民主党）他と共に出席した。ゲーツ議員は、同コーカスは強固な国境、強固な文化、ブケレ大統領が実施した強固な改革を奨励するため、両国の関係をはぐくみ、前進させるために存在すると述べた。

2. ポルタル外務副大臣（ディアスポラ及び短期雇用担当）の欧州訪問（外務省プレスリリース）

7 月 12 日より、ポルタル外務副大臣は、ポルトガル、スペイン、スウェーデン、スイス、ベルギー及びイタリアを訪問し、各国で政府関係者との懇談、在留エルサルバドル人との交流の他、エルサルバドル産コーヒーの普及活動等を行った。

3. トランプ前米大統領の候補受諾演説におけるエルサルバドルに関する言及

(1) 7月18日、トランプ前米大統領は、共和党の大統領候補の受諾演説において、エルサルバドルが犯罪者を米国に送り出しているとして、名前こそ直接言及はしなかったものの、ブケレ大統領を非難する内容を述べた。当該演説部分（一部抜粋）は以下のとおり。

「我々の犯罪率は上昇し、世界の犯罪統計は下降している。なぜなら、彼らは犯罪者を我が米国に送り込んでいるからだ。某国、そして私はたまたまその国の大統領がとても好きだが、彼は国の素晴らしい羊飼いで大きな評判になっている。彼は犯罪率が下がっているため、国がいかにもうまくいっているかと言い、荒くれ者を訓練していると言う。しかし、彼は荒くれ者を訓練しているのではなく、犯罪者、麻薬の売人、刑務所にいる人々を全て米国に送っていることに私は気づいた。そして、彼はそう言わないところが違う。彼は国の運営において自分がいかに素晴らしい仕事をしているかを皆に納得させようとしている。まあ、彼は素晴らしい仕事をしていない。エルサルバドルでは殺人が70%減少している。なぜ減少しているのか。エルサルバドルが殺人者を素晴らしい人間にするよう訓練したと説得するかもしれないが違う。殺人が減っているのは殺人者を米国に送り込んでいるからだ。これは非常に悪い。悪いことが起こるだろう。」

(2) これに対し、同日夜、ブケレ大統領は自身のSNSにて” Taking the high road（王道を行く）” とのみ投稿した。

4. 米共和党下院議員のエルサルバドル訪問（7月20～22日付当地主要各紙）

7月19日、マット・ゲーツ、アンディ・ビッグス、ダン・ビショップ、アレックス・ムーニーの4名の米共和党議員がエルサルバドルを訪問し、ブケレ大統領と大統領府にて会談した他、テロ対策センター（CECOT）を訪問し、ブケレ大統領による例外措置体制及び CECOT 建設が、ギャングを抑制し、他国への逃亡を防いでいるとして米国が感謝しているとのメッセージを発した。

5. ミラ外務副大臣のアルゼンチン訪問（外務省プレスリリース）

7月23日～26日、ミラ外務副大臣はアルゼンチンを訪問し、ダニエル・アルバレス CEL（レンパ川水力発電委員会）会長及びエドアルド・カルドサ駐亜エルサルバドル大使と共に、原子力エネルギーに係る各種施設を訪問するほか、ディアナ・モンディーノ外務大臣との間で、原子力エネルギー使用に関する協力協定締結を締結した。

6. ベネズエラ大統領選挙に対するブケレ大統領の反応

7月29日、ブケレ大統領は前日28日に実施されたベネズエラ大統領選挙の結果に関し、「不正行為以外の名前がない」として非難する内容を自身のSNS アカウントに投稿した。

7. 米国による対エルサルバドル支援（主要各紙）

6月及び7月の当地主要各紙は、米国による種々の対エルサルバドル支援を報じている。

(1) イロパング湖清掃のための水上ドローンの供与（6月13日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

在エルサルバドル米国大使館は、イロパング湖から固形廃棄物を除去する目的で、東サンサルバドル市に対して「WasteShark」として知られる水上ドローン3台の供与を行った。

(2) 米国国際開発庁（USAID）による職業教育支援（7月1日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

米国政府による支援のもと、エルサルバドル教育省及び国際移住機関（IOM）が連携して行った職業教育支援コースを、メガテック・ソンソナテ校（ESFE/AGAPE）の学生422名が修了した。

(3) 地域社会プロジェクトの終了（7月8日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

サンミゲル県においてギャング集団による暴力被害のリスクのあるコミュニティの教育施設を対象に行われていた、USAID 実施の地域社会プロジェクト（Nido: Comunidades Seguras、巣：安全なコミュニティの意）が終了。本プロジェクトは、生産性及び雇用の強化を目的にしたワークショップ、

職業訓練、技術講習等を開催するもので、裨益者数は3,600名ほど。プロジェクトの実施はNGO団体のグラスウィング・インターナショナル及びFusalmo財団が行い、総額2,000万ドルを超える資金はUSAID及び民間企業によって出資された。

(4) 女性主導の中小零細企業向けプログラムの開始（7月10日付ディアリオ・デ・オイ紙）

USAID、Integral（中小零細企業向け金融会社）及びFUSAI（エルサルバドル統合支援財団）が行う、女性によって率いられている中小零細企業の振興のために、ビジネス研修、マンツーマンの指導及び金融サービスを提供するプログラムを開始。

(5) 米国によるエルサルバドル軍へのオフロード車両12台の供与（7月12日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

米国大使館はエルサルバドル軍に対して、オフロード車両（ポラリス社製MRZR D4）12台の供与を実施。これらの車両はグアテマラ及びホンジュラス国境地帯のパトロールを行うタスクフォースチームに配属されることになる。

(6) 若手起業家支援（7月15日付ラ・プレンサ・グラフィカ紙）

7月12日、米国がエルサルバドルにおいては2016年から実施している「Young Leaders of the American Initiative (YLA I)」スキームに関し、これまでの参加者が集結し、プログラムによって得られた経験等についての意見交換を行う会合が実施された。エルサルバドルでプログラムが開始されてからの8年間でこれまでに合計70名がプログラムに参加している。

経済

1. 世界銀行の所得分類における高中所得国への移行（世界銀行報告書）

7月1日、世界銀行は、エルサルバドルを「高中所得国」に分類、メキシコ、グアテマラ、コスタリカ等と同グループに格上げとなった。これは、前年度の一人あたり国民総所得により分類され、エルサルバドル経済の実質GDP成長率は2.6%と算出された。一方で、極度の貧困率は2021年から2023年で8.4%から9.3%、貧困率は27.8%から30.3%へと上昇しており、格差の拡大を示すとの見方も報じられた。

2. 企業に対する太平洋空港の土木・道路建設工事にかかる関心表明要請の実施（7月10日及び11日付ディアリオ・エルサルバドル紙、ラ・プレンサ・グラフィカ紙）

7月8日、エルサルバドル空港港湾運営委員会（CEPA）は、「X」公式アカウント上で、企業に対して太平洋国際空港建設に関連する土木及び道路建設工事にかかる関心表明要請を実施。工事に関心のある企業は、7月11日までにCEPA指定の連絡先に問い合わせる必要があり、詳細はメールにて通知される。告示の数日前、アンリケルCEPA総裁は、本政権及びCEPAが航空分野に多くの投資を行っていることを強調しつつ、太平洋国際空港建設のメガプロジェクトは着実に前進している旨発言していた。試算によると、新空港は、運営初年度のみで5,000人の雇用を創出し、年間で300万人の旅客が行き来するキャパシティを備え、アジアや欧州とのコネクションを有する航空会社が乗り入れることになる見込み。

3. 全国製造業界（ASI）主催の輸出産業ランキング：日系企業「Kyocera AVX社」の受賞（7月12日付当地主要各紙）

7月11日、全国製造業界（ASI）は、2023年の当国からの輸出に大きく貢献した企業を称える授賞式「2024年輸出産業ランキング」を開催し、Kyocera AVX社がエレクトロニクス部門及びカテゴリー別特別賞「ユニークな国々への輸出企業」を受賞した。

4. ブケレ第二期政権による経済計画（2024-2029）（7月17付主要各紙）

7月16日、ブケレ大統領は、政権第一期にて達成した治安改善に続き、第二期を経済回復とし、6フェーズから成る「経済計画」について発言。第1フェーズは食料安全保障であり、農牧省主導で国内30か所に農産物市場（Agromercado）を設置、生産者と消費者が適正価格で直接売買を行う場を用意し、これを今後民間運営に移行していく予定とした。また、基本食料バスケット116品目（飼料、肥料、除草剤などの生産支援のための物品も含む）を10年間にわたり関税を撤廃するとした。第2フェーズは「テクノロジー」とし、中米地域の技術革新ハブを目指すとした（注：第3フェーズ以降は言及されていない）。

5. 米国国務省「2024年投資環境ステートメント」の発表

7月17日、米国国務省は最新レポート「2024投資環境ステートメント：エルサルバドル（2024 Invest Climate Statements: El Salvador）」を発表。エルサルバドルについて、投資環境においてエルサルバドルの強みは、立地、CAFTA-DRに基づく優遇措置、米ドルが法定通貨であること、治安の劇的改善。他方、流動性不足の継続が弱点とした。また、エルサルバドルは、ソブリン債不履行の差し迫ったリスクには直面していないが、格付けが低いため、引き続き資本市場へのアクセスに制約あること、企業活動の上での一般的課題は、税関における遅延と政策の予測不可能性であると評価した。

6. ラテンアメリカ開発銀行（CAF）による航空インフラ・海底通信ケーブル敷設への4億6500万ドル融資承認

7月18日、ラテンアメリカ開発銀行（CAF）は、エルサルバドルに対し、航空インフラに3億2000万ドル、海底通信ケーブル敷設に1億4500万ドルの融資を承認した。これにより、太平洋国際空港（Aeropuerto Internacional del Pacifico）の建設、イロパンゴ空港（Aeropuerto de Ilopango）の改修、トナラ飛行場（Aerodomo de Tonalá）の設計・建設、オンライン教育サービス・遠隔医療・ICT関連企業からの投資に不可欠なデータフローの拡大・遅延の低減を図る。

7. 中央銀行（BCR）2024上半期国際物品貿易報告書の発表

7月22日、エルサルバドル中央銀行（BCR）は、今年度上半期における国際物品貿易報告書を発表した。

（1）輸出額は32億米ドルで、前年同期と比較し、2億30万米ドル減（▲6.7%）となった。伝統的輸出品目でも減少傾向となり、特にコーヒー輸出額は前年1億6百万米ドルから76百万米ドルに減少した。

（2）輸出先別では、米国向けが11億6百万米ドル（▲12.3%）となった一方、中国、メキシコ、韓国は増加した。

（3）輸入額についてはほぼ横這いであり、輸入元別では日本は145.9百万米ドルから135.9百万米ドルに微減（▲6.8%）となった。

8. エル・バルサモ地区農業コミュニティと沿岸経済圏の連結プロジェクトの開始式典（7月24日及び25日付ディアリオ・エルサルバドル紙、ラ・プレッサ・グラフィカ紙）

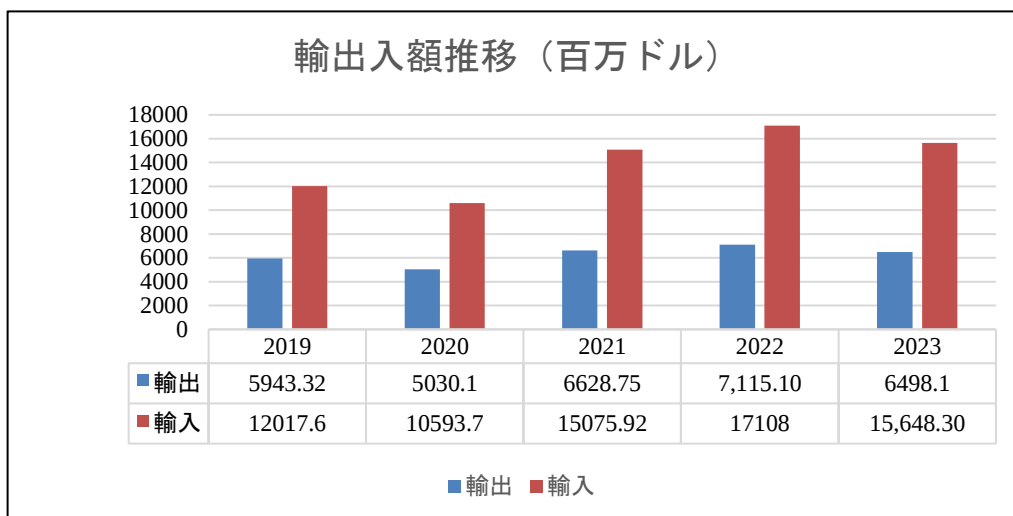
（1）7月23日、世界銀行、在エルサルバドル日本国大使館およびカトリック・リリーフ・サービス（CRS）は、ラ・リベルタ県山岳部チルティウパン区、タマニケ区、コマサグア区の農業コミュニティにおける市場アクセス、食料安全保障、食品多様性の改善のため「エル・バルサモ地区農業コミュニティと沿岸経済圏の連結」プロジェクトの開始式典を実施。本プロジェクトは世銀日本社会開発基金（JSDF）からの供与資金（276万ドル）を使用してCRSによって実施され、対象地区の6,250世帯が直接的に裨益するもの。

（2）ブエソ世銀プロジェクト担当によれば本事業はエル・バルサモ地区の穀物、果物、野菜、コーヒー農家と、サーフシティ所在エリアを含む沿岸部のレストランやホテル、市場との連結を推進するも

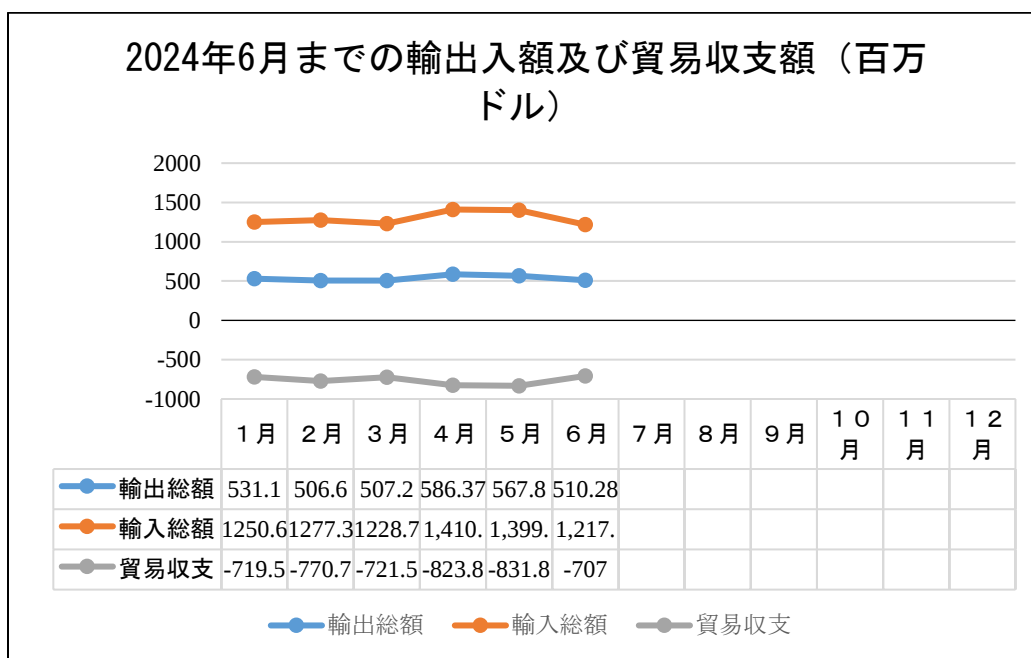
のであると説明。マリングCRSエルサルバドル代表は、本プログラム終了までに農家と地域の市場の間に生産的な同盟が確立されていることを想定している旨述べ、また、名井JICAエルサルバドル事務所所長は、気候変動の影響を軽減する新技術を活用した農村部における生産性の向上及び農作物の商業化に対して支援を行うことは、日本の既存の協力案件を補完するものになるだろうと述べた。

9. 貿易総額

2023年の輸出総額は64億9,810万ドル（前年比8.7%減）。輸入総額は156億4,830万ドル（前年比8.5%減）となった。



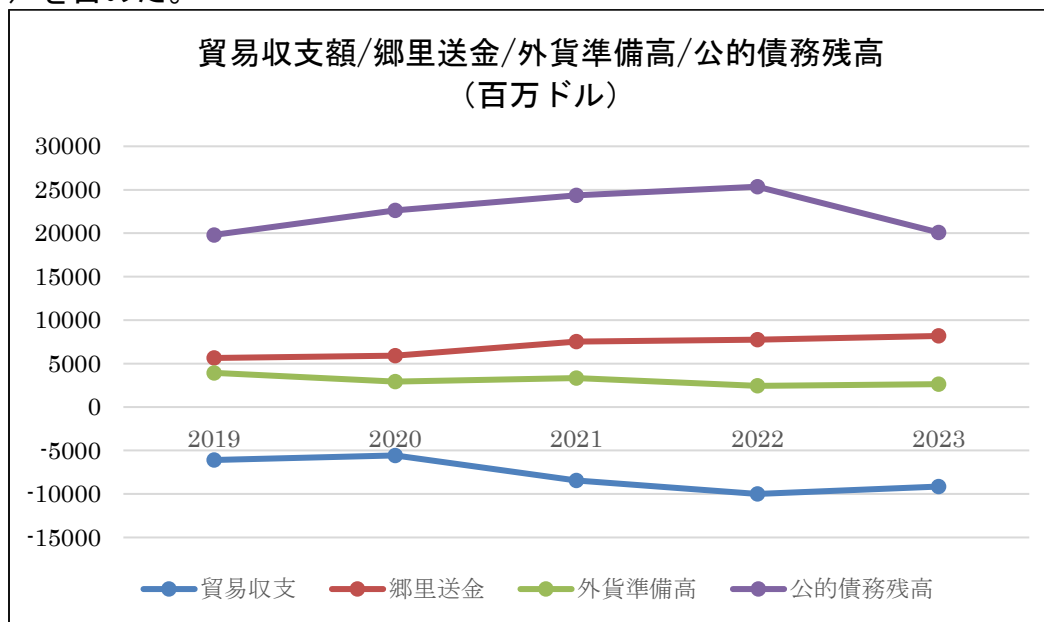
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）



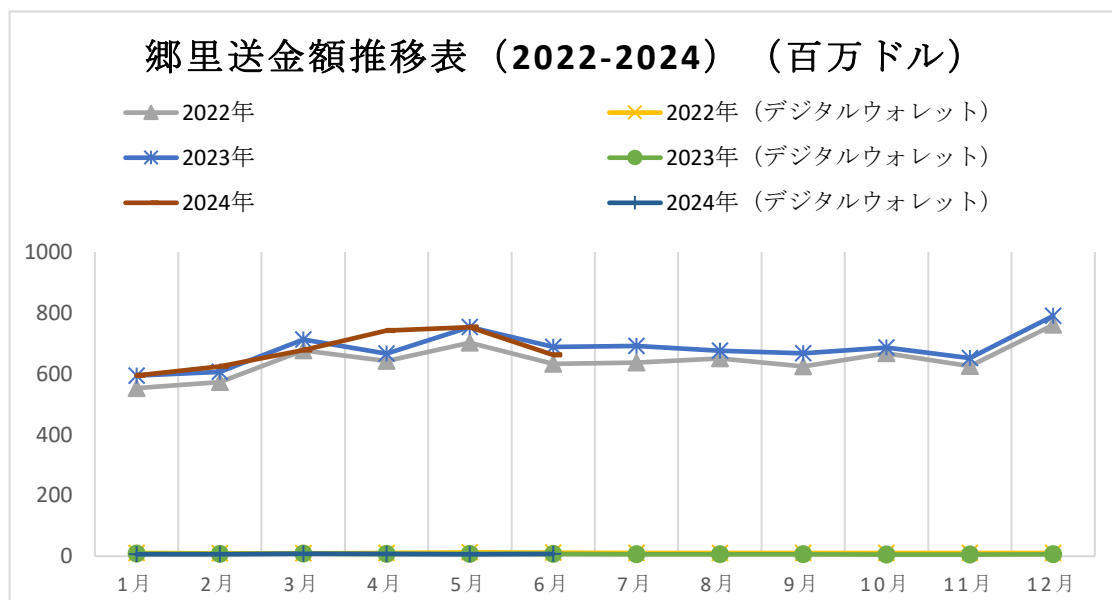
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

10. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

- ・ 2023 年の貿易収支額はマイナス 91 億 5,020 万ドルとなり、前年より赤字額が 8 億 4,270 万ドル縮小した。
- ・ 2023 年の郷里送金額は 81 億 8,180 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の 93.0%（76 億 620 万ドル）を占めた。



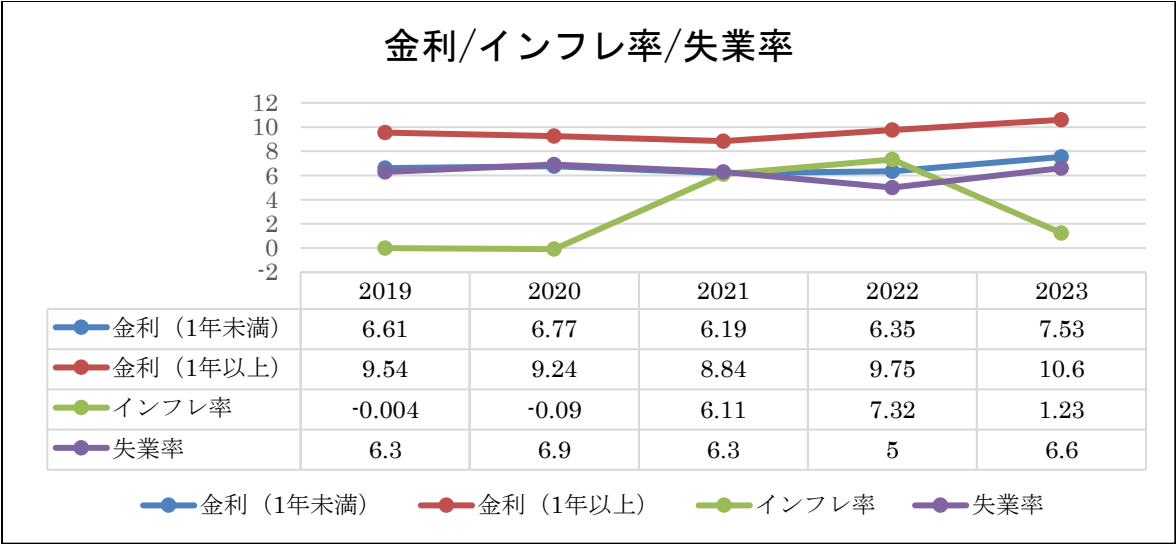
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

11. 金利・インフレ率

2023 年のインフレ率はプラス 1. 23%であった。また 2022 年のインフレ率はプラス 7. 32%であった。
2022 年の失業率は 5. 0%であった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

（了）